

年頭所感

中澤 靖夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長



平成25年の新春を迎え、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

平素は本会の事業推進につきまして、ご理解とご協力を頂き深く感謝申し上げます。本年も昨年同様にご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

初春を迎え、会員の皆さま方におかれましては、どのような夢と希望と目標を抱かれたことでしょうか。昨年は創立65周年記念式典、第28回診療放射線技師総合学術大会、第6回JART・JSRT合同学術セミナー、第72回定期総会などに出席し、本会の考え方を説明しご理解を頂いてきたところです。

さて、昨年は世界の指導者が自国の選挙を経て、交代あるいは再任しています。ロシアはメドヴェージェフ大統領からプーチン大統領へ、フランスはサルコジ大統領からオランド大統領へ、中国は胡錦濤国家主席から習近平国家主席へ、アメリカはオバマ大統領が再任されました。国の指導者が入れ替わるということは政策が変わることを意味し、再任の場合はより強力な政策の実施へとかじを切ることになることが予想されます。わが国をはじめ世界の指導者は、新しい指導者の考え方を注視しながら世界の潮流を意識し、平和五原則（領土・主権の相互尊重、相互不可侵、相互内政不干涉、平等互惠、平和共存）の基、それぞれの役割を担う中で発展することに努めていただきたいと願うものです。

今、世界の人々は、戦争の時代から平和の時代を求めています。大量消費の時代から自然に優しいエコロジーの時代を求めています。経済至上主義から環境循環型社会の実現を目指しています。その鼓動は地球の大地から静かに伝わってきています。動植物たちは大自然の営みを謳歌し、人類は大自然の守り人としての意識に目覚め、確かなところ、身近なところから、地球環境の保全のために活動を開始しています。

医療者の使命は、けがや病気で苦しんでいる人々の痛みに共感し、温かい手を差し伸べることです。温かい手の中に医師がおり、看護師がおり、診療放射線技師がおり、各医療専門職種がいます。患者さんや患者さんの家族をチーム医療の一員として考え、共に悩み共に知恵をしぼり、けがや病気の治癒に向かってそれぞれの役割を実践するのがチーム医療です。それぞれの医療専門職種が対等な立場で検査・治療について話し合い、患者情報を共有化し専門業務を乗り越え、客観的立場からお互いの専門業務をチェックし合う関係こそが、真のチーム医療です。

本会は真のチーム医療を推進するため、診療放射線技師が行っている日常業務の実態調査に基づき、厚生労働省チーム医療推進会議で、診療放射線技師が実施している診療補助行為について意見を述べてきました。昨年は、厚労省社会保障審議会医療部会で取りまとめられた、診療補助行為についての全国統一研修会を実施しました。本年も、患者安全を第一優先とし、医療安全の視点から全国統一研修会を開催します。そして国民と協働し、医療者と協働し、質の高い医療技術を提供する診療放射線技師を継続的に育成し、社会的責任を全うする所存です。皆さま方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。